

公開
シンポジウム

2月24日(日) 13時~17時

明治大学リバティータワー

原発事故と有機農業

有機農業運動論の再構築

東日本大震災と福島第一原発事故から、まもなく2年です。当初の緊急事態対応の段階から、福島第一原発事故を動かさない事実として踏まえ、また、今の現実的諸課題にしっかりと対応しつつ、同時に食と農は土に守られてきたことを改めて認識して、これからの時代を生きていく心構えと大まかな道筋への本格的な論議を始めることが強く求められているでしょう。

そのとき、「農業」と「地域」はそれぞれ、数字による「安全」とは違った領域としてあり、そのことを人びとがこれから生きていく道筋の課題として取り上げることが切実に必要だろうと感じています。それは「脱原発」を「脱都会」「脱工業化」の方向で、さらに言えば「農業」や「地域」の本源的意味に立ち返りつつ、具体的に考えていくことです。

今回の原発事故で、有機農業運動は、きわめて大きな試練にさらされてきました。私たちは、「安全性論」とそれを踏まえた「消費者提携論」に、過度に、安易に依拠してきたこれまでの、強く見直すことを求められているように考えます。

そんな思いから、事故2年目の節目を意識して、公開シンポジウム「原発事故と有機農業——有機農業運動論の再構築」を開催します。これは、2011年10月16日に「それでも種を播こう」をテーマに行った公開シンポジウムを引き継ぐものです。チェルノブイリ原発事故以後のベラルーシ・ウクライナの状況も踏まえながら、「かけがえのない地域で暮らし続ける」「有機農業運動のあり方を問い直す」ことをメインテーマとしたいと思います。

Program

第1部 特別講演

13:10~14:00

汚染地にみたもうひとつの豊かさ

本橋 成一 (写真家・映画監督)

第2部 福島からの現地報告

14:10~14:50

南相馬市小高区の現状と取り組みから 根本 洗一 (有機農家、小高区上耳谷)

科学者の視点から 野中 昌法 (新潟大学農学部教授、日本有機農業学会理事)

第3部 有機農業運動論の再構築へ向けて

15:00~16:10

問題提起 ● 明峯 哲夫 (有機農業技術会議代表理事、農業生物学研究室)

菅野 正寿 (福島県有機農業ネットワーク代表理事、有機農家)

高橋 久夫 (福島県有機農業ネットワーク東京事務所 (準))

黒田 かをり (CSO ネットワーク事務局長)

コメント ● 中島 紀一 (茨城大学名誉教授、日本有機農業学会理事)

飯塚 里恵子 (千葉農村地域文化研究所)

ディスカッション

16:10~17:00

司会 ● 大江 正章 (アジア太平洋資料センター共同代表、コモンズ代表)



■本橋 成一

1940 年生まれ。写真家・映画監督。映画館「ポレポレ東中野」オーナー。代表作に写真集『炭鉱 くヤマ』(1968 年、第 2 版、現代書館、1992 年)、『無限抱擁』(リトルモア、1995 年)、『ナージャの村』(平凡社、1998 年)、『アレクセイと泉』(小学館、2002 年)、『屠場』(平凡社、2011 年)、ドキュメンタリー映画『ナージャの村』(1997 年)、『アレクセイの泉』(2002 年) など。

どこにも逃げられない

本橋成一が監督したドキュメンタリー映画『ナージャの村』は、チェルノブイリ原発の被災地、現在のベラルーシ・ドウチチ村を取材したものだ。ベラルーシは原発の風下にあり被害が大きかった。もともと 300 家族が暮らしていたこの小さな村も、事故後強制避難の対象となった。しかし退去を拒む家族がいた。この映画はその 6 家族 15 人のその後の暮らしを、淡々と描写していく。ナージャはそのうちの 7 人家族の末娘である。

同名の写真集の中で農民の一人は語る。

「人々はパンを食べる。わたしたちは放射能を食べる。国はおくに去った。わたしたちはこの地に、踏みとどまっている。もしロシアを捨て天国に生きよ、といわれたら、私はいう。天国はいらない、故郷を与えよ、と」

原発から 180km 離れたベラルーシ・フジシチェ村も、強制避難の対象となった。人口 600 人のこの村でも、55 人の老人たちと一人の青年アレクセイが村に残った。映画『アレクセイの泉』はここを舞台にしている。写真絵本『アレクセイと泉のはなし』(アリス館、2004 年) の中でアレクセイは言う。

「村で生まれた者は、たとえ町に行っても、いつも村に心を寄せている。運命からも、自分からも、どこにも逃げられない。だから僕はここに残った」

「役人がきて、村は危険だから早く引越しなさい、とすすめたとき、母さんは言った。『この動物たちは、木や草はどうするんだい。いっしょに連れていってもいいのかい?』」

『ナージャの村』のあとがきで、本橋はこう言っている。

「あえて汚染地域に住み続け、自分が生きていることを自らの肉体の存在を以て証明しているのだろう。それは汚された大地への無言の抗議であり、その場に居合わせたばかりに対するメッセージだった」 (明峯哲夫)

■日時： **2月24日(日)** 13時～17時
(12時半開場)

■場所： **明治大学リバティータワー**
2階 1021 教室

(〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1)

【最寄駅からのアクセス】

- ◆ JR 中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車。徒歩 3 分
- ◆ 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車。徒歩 5 分
- ◆ 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車。徒歩 5 分

■参加費 1,000 円(資料代)

■お問い合わせ・参加申込先

MAIL : yuki-gijutsu@coast.ocn.ne.jp FAX : 0479-75-4690

※当日参加も受け付けますが、準備の都合上、あらかじめお申し込みいただければ幸いです。

